

報告書「The Paris Climate Agreement and Beyond: Linking Short-term Climate Actions to Long-term Goals」からのメッセージ

Key Messages from *the Paris Climate Agreement and Beyond: Linking Short-term Climate Actions to Long-term Goals*

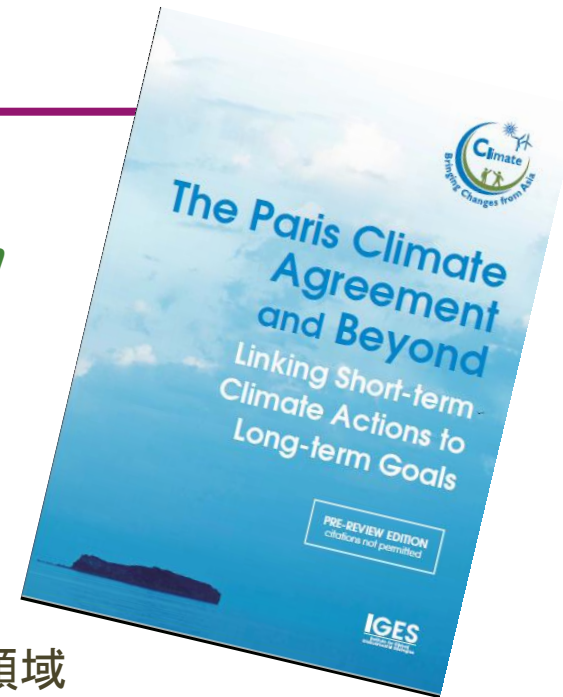
田村 堅太郎

(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)

関西研究センター/気候変動とエネルギー領域

Kentaro Tamura, PhD

Deputy Director of Kansai Research Centre /
Leader of Climate and Energy Area

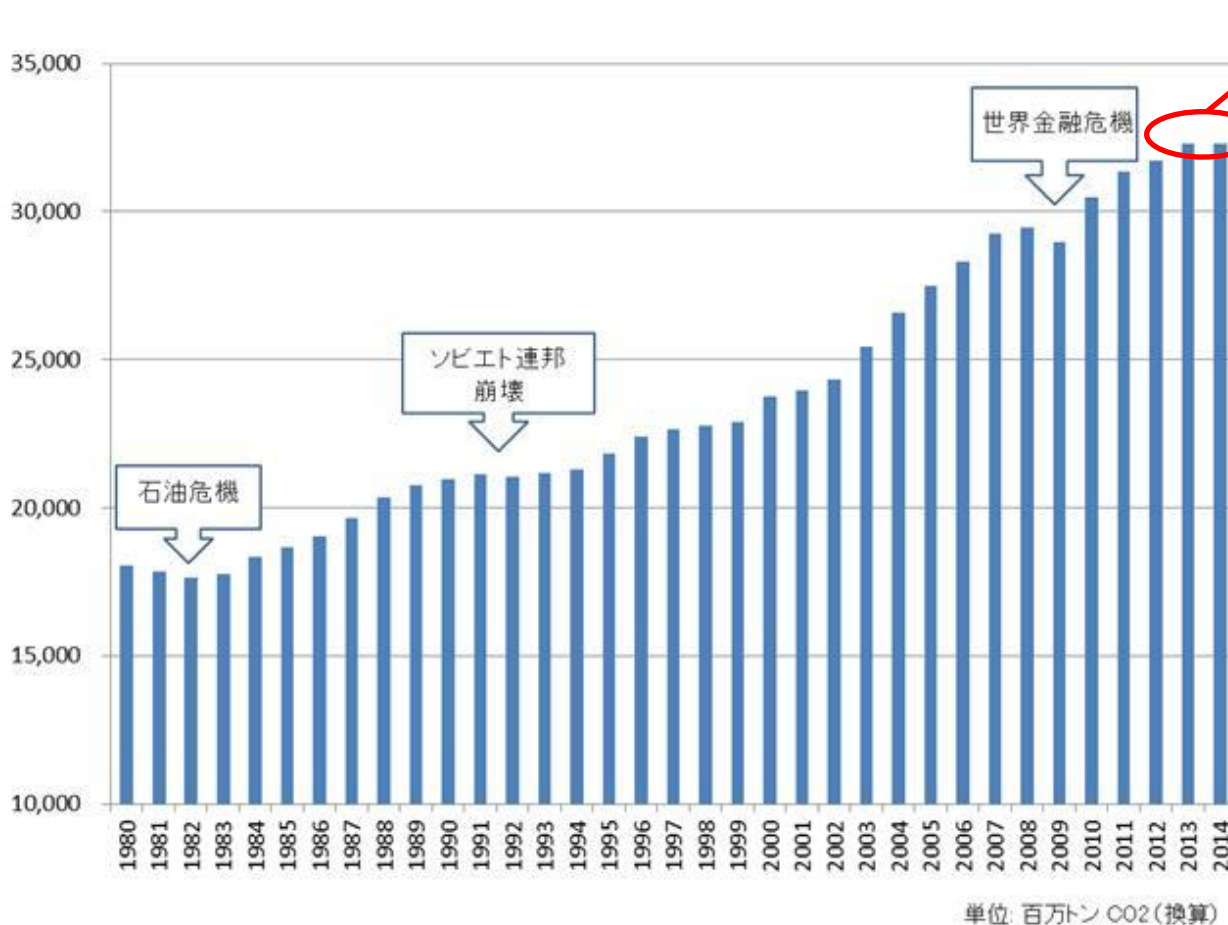


IGES
Institute for Global
Environmental Strategies

背景：パリ合意の歴史的な文脈における意義とその課題

1. 条約の究極目的の具体化としての「2°C目標」が合意され、この実現に向けて、先進国に加え、途上国も行動を強化することを目指している、
2. 条約の下すべての締約国に適用する法的枠組みを、法的拘束力と柔軟性をバランスさせながら策定する必要
3. 参加の範囲を拡大するためにNDC (nationally determined contributions) という国別削減貢献をボトムアップで持ち寄るアプローチを採用。同時に、2°C目標に合致させるために、各国のNDCsを一定期間のサイクルで見直し強化する仕組みが必要だとする議論
4. 途上国、特に最貧国・島しょ国などの緩和・適応行動の強化をサポートする努力の強化する必要性についての指摘
5. 非国家アクター（企業、自治体、市民社会組織）の率先行動を認知、奨励・サポートし、知識・経験を共有することの重要性についても多くの指摘

CO₂排出量と経済成長の分離(デカップリング)の兆し ただし、2°C目標達成には更なる努力が必要



世界経済
3%成長

There is a hint of decoupling of world economic growth from CO₂ emissions, but greater efforts are required to achieve the 2° C target.

- 再生可能エネルギーを含む低炭素エネルギーの導入加速
- エネルギー効率の上昇
- 中国等の新興国経済における構造変化
- 世界経済の減速

排出量の構造変化の背景には共通動機 国際気候枠組みはこの共通動機を上手く利用すべき

Behind the emissions structure change, there are similar motivation for reinforcing climate actions. Such motivations should be leveraged by an international regime.

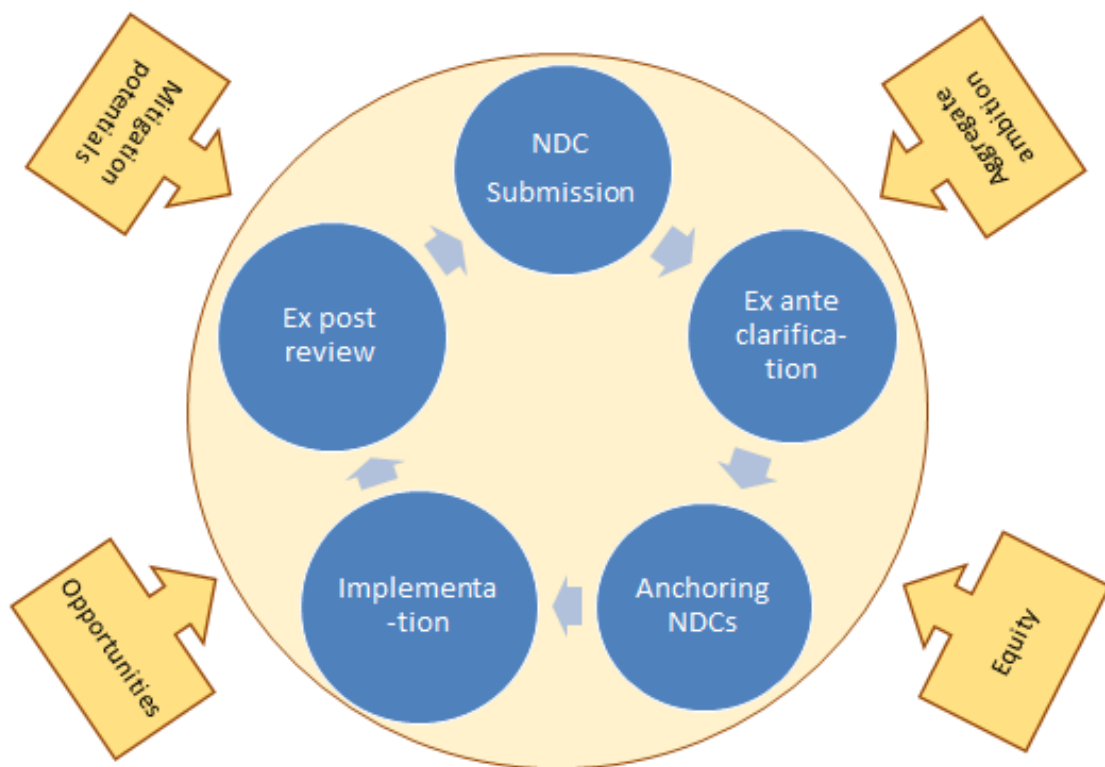
- 温室効果ガス(GHG)排出構造に変化を与える要素は国毎に異なる。

しかし

- 異なる発展レベルや政治・経済・社会・技術環境の国々でも、似通った動機(例:EU、米国、中国)
 - エネルギー安全保障の向上
 - 低炭素技術市場でのグローバル・リーダーを目指す
- 国際気候変動枠組みは、こうした共通動機を利用し気候行動を更に加速化させるように設計されるべき

パリ合意には、国別に決定する貢献・約束(NDC)について、意欲度の継続的な向上を促す評価・検証サイクルの設置を含むべき

A cycle for reviewing and submitting subsequent nationally-determined contributions (NDCs) after the initial submission should be established in the 2015 agreement.



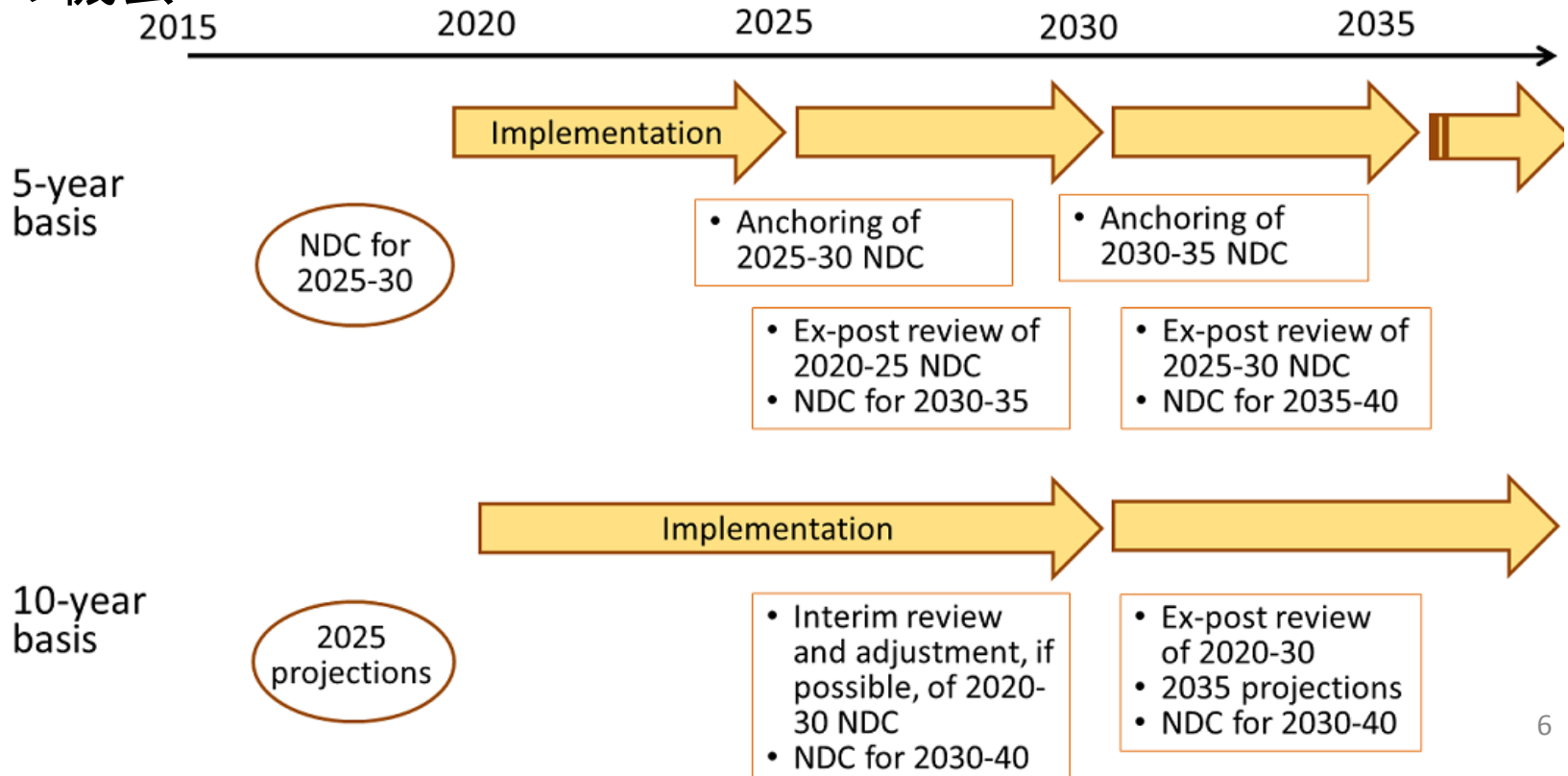
このサイクルが効果的かつダイナミックに作用するための課題

- ① NDCの異なる実施期間
- ② NDCの法的明確性と柔軟性のバランス
- ③ サイクルにおいて活用される情報および指標
- ④ 排出削減サイクルと資金サイクルのリンク

排出削減の評価・検証サイクル①:NDCの異なる実施期間

Different implementation periods should be synchronised to generate collective action of NDCs adjustment every five years.

- 国によってNDCの実施期間が5年あるいは10年
 - 10年サイクルの国に対しては中間レビューを行うことで、5年および10年サイクルの国両方が5年毎にレビューを受ける
- ⇒ 5年サイクル(2026年、2031年)で、NDCの協調的な調整・修正の機会



排出削減の評価・検証サイクル②: NDCの法的明確性と柔軟性のバランス

- 2015年合意に対するパッケージ方式の特性を活かすことで、法的明確性と柔軟性がうまくバランスのとれたものになりうる。
By taking advantages of a package approach to the 2015 agreement, the NDC cycle can strike a balance between legal clarity and flexibility.
- ⇒ 法的明確性と柔軟性の間のバランスをうまく取り、締約国がNDCを定期的に調整するための基盤を築くことができる

2015年合意
パッケージ

＝ 中核的な合意 ＋ COP決定 ＋ 非法的文書

↓

全締約国がNDCを提出し、実施し、定期的に更新することに関する法的義務を規定

↓

法的明確性

↓

NDC自体は非法的文書に記載(例:コペンハーゲン/カンクン誓約における登録簿)

↓

柔軟性(更新が容易)

排出削減の評価検証サイクル③： サイクルにおいて活用される情報・指標

- 評価・検証サイクルが機能するために必要な科学的知見を提供するために、気候政策研究機関の「コンソーシアム」の設置

A consortium of climate policy research institutes with good regional representation should be established to comprehensively assess the NDCs

- 各種前提条件および想定
- 衡平性
- 排出削減ポテンシャル
- 機会と便益
- NDCの総和の十分性

「負担」ベースの議論
からの脱却；排出削減の
動機付けを強化
(スライド3、4参照)

- NDC評価においては国情が十分かつ適切に考慮される必要
＝「コンソーシアム」の設置にあたっては評価当該国・地域の
研究者の参画を重視

排出削減の評価・検証サイクル③: サイクルにおいて活用される情報・指標

【日本のINDC(貢献草案)の分析例⇒評価アプローチへの示唆】

- 幅広い評価指標・アプローチを適用することが望ましい
 - IGESでは以下の観点から分析: 1) 経済全体および部門別の排出原単位など諸指標の欧米との比較; 2) 衡平性指標に基づく残り排出許容量; 3) 排出削減ポテンシャルおよび政策努力
- 特定の計算モデルを用いるのではなく、既往研究に報告されている多くのシナリオ分析結果に基づいた統合的分析を行う必要
 - モデル分析に関する様々な不確実性の包括的な考慮が可能
- 多様な研究機関を巻き込んだ「コンソーシアム」の役割・機能
 - 各国情の十分かつ適切な反映
 - 便益ベースの指標を構築
 - 幅広い研究成果の取り込み

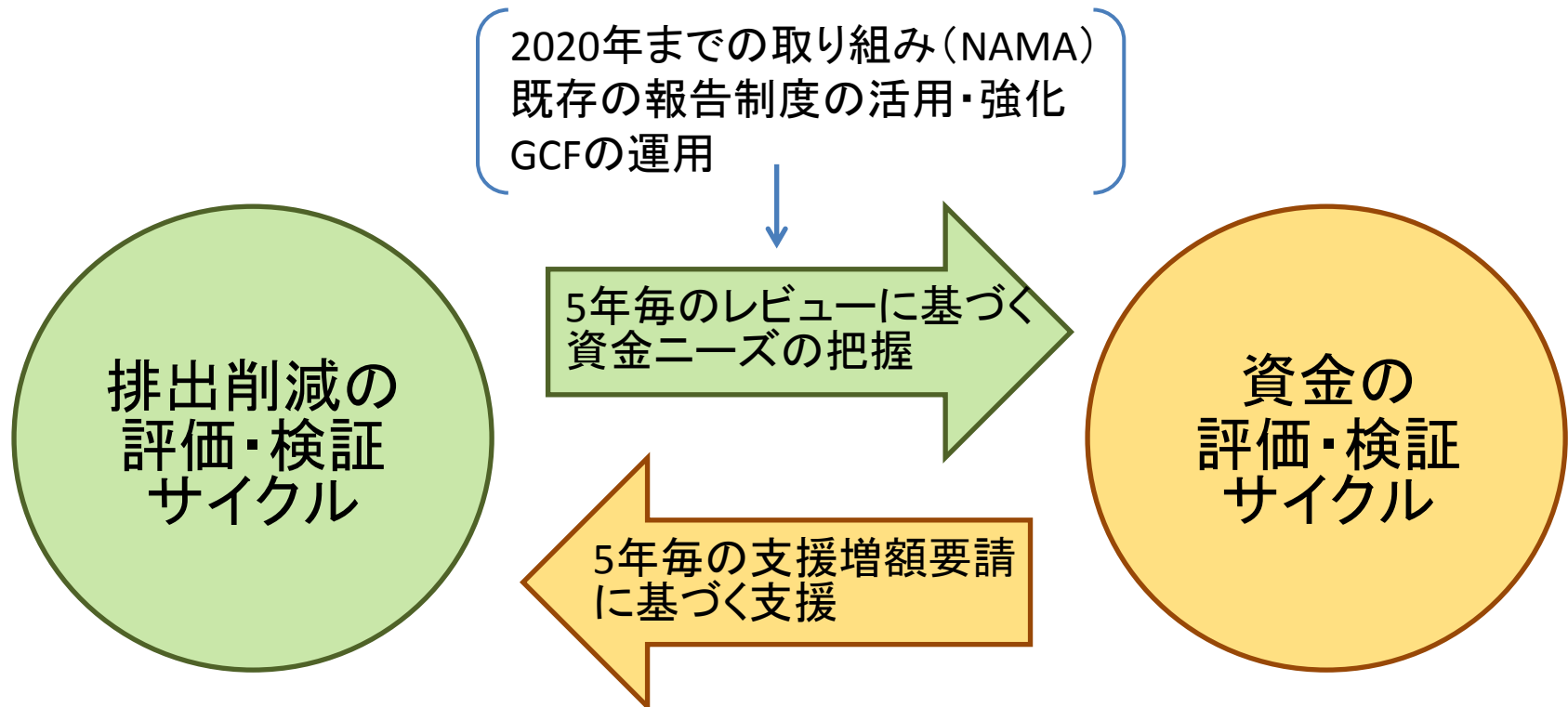
評価・検証結果の信頼性
および受容性の向上へ

2015年合意では、資金に関して以下の三つの要素を含むべき:

- (1) 将来の資金規模の予測可能性
- (2) 途上国における資金を効率的な活用を可能にするための環境の改善と気候資金のスケールアップ実現のための戦略策定
- (3) 資金拠出およびその成果の透明性

• 排出削減サイクルと資金サイクルのリンク

A linkage between the mitigation cycle and the finance cycle should be established.



2°C目標達成に向けた市場メカニズムの活用

To contribute to the two degree target, the framework for various approaches, including market-based mechanisms, should contain two key aspects: one is to ensure environmental integrity and the other to incentivise mitigation efforts.

- 「市場メカニズムを含む様々なアプローチのための枠組 (Framework for Various Approaches: FVA)」の設立には、次の2つの要素を含むことが求められる
 - 環境十全性の確保
 - 排出削減努力を推進
- FVAのアカウンティングにおいては、GHGインベントリーが排出削減行動の進捗を評価する基盤
 - しかし、多くの途上国でまだ開発の途上
 - FVAへの参加が、GHGインベントリーの改善につながるような仕組み
 - 国家GHGインベントリーを向上する一歩としてのセクター別インベントリーの開発を提案
- 国家間の排出クレジットの移動を管理し、ダブル・カウンティングを防止するため、追跡及び登録システムの確立、または共通の報告形式を設ける必要がある。
 - 先進国及び途上国間のキャパシティの違いを考慮しなければならず、この違いは国際協力を通じて、徐々に改善されていくべき

今後について

- サイクルや市場メカニズムに関し、条約事務局への意見書提出
- 適応、損害と被害について報告書へ追加
- 外部レビュー
- 8月に最終版